佛心

二〇二一年十一月号
浄土真宗　本願寺派
トロント仏教会

永代経法要

先月の21日、トロント仏教会では永代経法要が厳修されました。

永代経法要と聞くと多くの方々が先祖への永代の追善供養する法要と認識されているのではないでしょうか。しかしこの永代経とは、永代読経の略語であり、念仏のみ教えを広めるためにお寺を支えてこられた方々に感謝の意を込めて営まれる法要のことです。

いまここに念仏のみ教えがあり、いまの私がそのお念仏に出遇えたのは、多くの先人たちが大切に守ってきたからであり、トロント仏教会でも多くの方々が、お念仏のみ教えを次の世代へ残していこうとお寺の護持発展を助けて下さいました。そのご縁が次のご縁を呼び、またそのご縁がそのまた次のご縁を呼んでいきます。

お釈迦様はこの「ご縁」もしくは「因縁生起」というものを大変重要視して教えを説かれました。ある高僧の方は「仏教とは、あらゆる物事の因縁生起をあきらかにみることからはじまる」と言われたぐらいです。

縁なくしては物事の因果は成り立ちません。この私たちの存在そのものも目には見えない多種多様な縁が重なって成り立っているものであり、普遍的なものではありません。

よく子どもたちにこのことを教えるときは、花の例え話をつかいます。例えば、花が咲くという結果が生じたとします。なぜ花が咲いたのか？それは花を咲かす種があったからです。つまりは、花が咲いたという結果は、種があったという因から起こったものです。ただ、種だけでは花は咲きません。そこに栄養となる土や水、太陽からの光という縁があるからこそ、その種は青々とした芽を生やし、つぼみをつけ、花を咲かすことができたのです。

これだけを聞くと「縁」と「因果」というものが想像しやすいです。しかし、私たちの精神的もしくは感情的なところ、さらには私たちの根本的な存在自体の「因果」まで考えると、この縁というものを知るのはなかなか難しいことです。「形あるものいつかは壊れる」という言葉がありますが、その形が指しているものがいのちだとすると、さらにはそのいのちが私のいのちだとすると、なんとも考え深いものになっていきます。私自身（因）もいつかは死に往く存在である(果)と知ったとき、あらゆる縁が他人事ではなくなっていきます。そしてそれが他人事ではなくなったとき、私たちは後生の不安を抱かずにはいられません。そのような私たち人間の抱く根本な悩みの種（因）を明らかにして、様々な教えを説かれたのがお釈迦様でした。

お釈迦様がまだご存命だったとき、ある女性が命を落とした小さな赤子を胸に抱きながら相談にやってきました。その相談とは、亡くなった我が子をお釈迦様の力でなんとか生き返らせて欲しいという願いでした。するとお釈迦様は一言、「分かった、生き返らせよう。」と返答しました。その婦人は大喜びです。しかし、お釈迦様はある条件を一つだけその婦人に突きつけました。その条件とは、「まだ死人の出ていない家から芥子の実をひとついただいてきなさい。それを持ってくれば、その子を生き返らせよう」とおっしゃったのです。

婦人は急いで町に戻り、多くの家を尋ねて参ります。しかし、どこの家も大切な人を亡くしており、条件の揃った芥子の実を手に入れることができませんでした。日も暮れる頃、その婦人がお釈迦様のもとへ戻って来ました。

お釈迦様は「まだ大切な人を誰一人として亡くしていない家から芥子の実をもらうことはできましたか？」と訪ねました。すると婦人は、「もう我が子を生き返らせなくて大丈夫です」と答えました。婦人は町の各家々を回って行く中で、私だけでなく誰もが愛しき大切な人を亡くしていることに気づかされたのです。

婦人はいのちの因果をお釈迦様という縁を通して初めて知ることができました。彼女は我が子を生き返らせるという執着から離れ、苦悩から目を背けるのではなく、苦悩を苦悩として受け止め、仏弟子になったと言われています。

また苦悩を受け入れることだけが「縁を知る」ことではありません。これは私が日本でお世話になった住職から聞いた話です。そのお寺には真宗のみ教えに熱心な御門徒さんがおられました。その御門徒さんは毎朝晩お仏壇の前で正信偈をあげていたそうです。

しかし晩年になると、足腰が弱ってお仏壇の前に座ってのお勤めができなくなりました。寝たきりの生活になってからも正信偈をあげ、常に念仏を称えていたそうです。しかし日が経つにつれ、ベットの上での正信偈もなかなかうまく称えられなくなっていきました。するとその方の息子さんがベットの側で「お母さん、一緒に正信偈を読もうか。」と尋ねたそうです。

彼女は、息子と一緒に正信偈を読みながら、途切れ途切れに「ありがとう、ありがとう、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏」と涙を流していたそうです。そのような日々を2ヶ月間ほど過ごし、彼女はお浄土へ往かれました。

住職さんがその家族のお葬式を行なった際、その息子さんは往生されたお母さんと同じように、つねに「南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏」と申しておられたそうです。そして葬儀での弔辞で彼は、「母親の背中を見て多くのことを教えられた。母親は歳を取るにつれてだんだんと仏様になっていくようだった。私もお念仏のみ教えをしっかり聞いせていただき、仏様と一緒に生きる生き方をしたい。」と仰っていました。

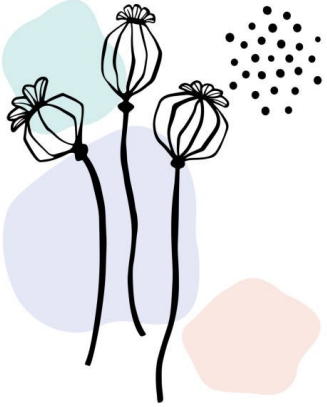
この話を住職さんから聞いたとき、この方はこの上なくかけがえのない尊いご縁を母親より譲り受けたのだと感じました。

私たちはよく縁起という言葉に対して良し悪しをつけて話します。しかし、本来は仏教での「縁」に良いも悪いもありません。いまいただいた縁をどのように受け止めるかは私たち次第のところもあるかと思われます。

先月は永代経法要というご縁を通して、念仏のみ教えに出遇わせていただきました。皆さんと一緒に手を合わさせていただくことができたのも、先人達が大切に守ってきたお寺とお念仏のご縁があったからこそだと思い合掌させていただきました。

合掌

駐在開教使　大内祐真



法要のお知らせ

「祥月法要（日本語法座）」

祥月法要とは、祥月命日（故人が往生された月のご命日）をご縁として仏法に遇い、阿弥陀さまの恩徳に報謝する思いでお勤めする法要です。

12月5日(日曜日)

時間：午前11時～　※12月は**日英の両語**で法要をお勤めします。
場所：トロント仏教会、ZOOM

1月9日(日曜日)

時間：午前1時～　※1月は**第二日曜日**に日本語での祥月法要をお勤めします。
場所：トロント仏教会、ZOOMお知らせください。

じょうどうえ
成道会

成道とは、お釈迦さまがさとりを開かれたことをいいます。お釈迦さまは、２９歳で出家され、それから６年間、苦行をされ、瞑想に入り、４９日目の早朝、さとりを開かれました。それが１２月８日に当たります。お釈迦さまは、人は、なぜ死んでいくのか、死んでいくのになぜ生まれてくるのか、この人生にどんな意義があるのか、という人生の苦悩の解決を求めて出家されました。私たちは、そのことを一生涯知らずにむなしく終わっていくかもしれません。そういった姿を悲しまれ、生死問題を既に解決して下さり、南無阿弥陀仏と喚んで下さる仏さまがおられると教えて下さったのが、お釈迦さまでした。お釈迦さまが成道されたおかげで、今私たちは、生死問題の答えであるお念仏に出遇えたのです。

トロント仏教会では法要を対面式とオンライン(ZOOM)で行います。
日時：2021年12月19日(日曜日)　午前11時から
場所：トロント仏教会、オンライン（ZOOM）

お勤めの後に成道会にちなんだ法話がございます。

年末年始の行事予定

除夜の鐘

12月31日(金)午後11時30分～

2021年最後の読経の後、

お一人様一回ずつ鐘を撞いていただけます。

元旦会（初詣）

1月1日(土)

英語：午前11時～　日本語：午後1時～

新年最初の読経の後、法話がございます。

ご家族ご友人とお誘い合わせてお参り下さい。

日本語法要のご案内

毎月第一と第三の日曜日は、午後一時より**日本語**での日曜法座を対面式と並行してＺＯＯＭ配信でも行っております。本堂にて直接ご参拝を希望される方は、人数制限や席の配置等のこともあるので、トロント仏教会の事務所 tbc@tbc.o n.ca までを直接参拝の旨をメールにてお願い致します。

新たにＺＯＯＭでの参拝を希望される方は、事務所までメールをお願い致します。法要のご案内と一緒にZOOMのリンクを送らさせていただきます。

※ZOOMリンクは英語法座と同じものを使用しています。時間帯が異なるだけですので、日本語法座を参拝される方も英語法座と同じリンク先をご利用してください。

トロント仏教会ではキッズサンガ(子ども会)をオンラインと対面式で行っております。Zoomでの参加を希望される方は、kids.sanghatbc@gmail.com までご連絡ください。キッズサンガグループよりZoomリンクが送られてきます。

日時：12月5日(日)、19日(日)　午前10時30分から。

場所：トロント仏教会本堂 ／ Zoom

※法要後にワークショップなどお楽しみ会を行います。

※法要ならびにワークショップは英語で行います。